
茜色の日記帳 ~ Missing Mean ~

瑪瑙

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

茜色の日記帳〜Missing Mean〜

【Nコード】

N3106B

【作者名】

瑪瑙

【あらすじ】

ある年の大晦日、私は自室の掃除をしていた。小学校の入学と一緒に買ってもらった勉強机、その中から日記帳が出てきた。日記なんて付けてた、だろうか、なんて思いつつ。私は、その日記を開いた。

何となく、自分の机の掃除を試みた。

すると、小さい頃、縁日にお母さんにねだって買ってもらった日記帳が出てきた。

ビニールカバーで、当時好きだったアニメのキャラクターが表紙だ。誰かに見られないように、鍵も付いている、本に指しっぱなしだった。

懐かしさを思い出し、私は机に座って、その日記帳を開いてみる。

茜色の日記帳〈Misssing Mean〉

【8月13日／水曜日／曇り】

最後の日付はこうなっていた。

年は、いつなのだろう。

最初のページからめくってみたけど、どこにも書いていない。

とりあえず、読んでみれば思い出さだろうと、日記を読んでみた。

【8月12日／火曜日／晴れ】

『今日は良い天気だった。きっと明日も晴れるかな？

そうそう。明日、司君と二人っきりで遊びに行く予定を立てちゃった。

スポーツがとくいで、やさしくて、女子のあこがれの的。うれしい、楽しみ』

3

私は疑問に思った。

『司君？』

記憶にない、誰だろう……次の日付のを読んでみる。

【8月13日／水曜日／くもり】

『楽しみで眠れなかった。えんそく前みたいだったなあ。

早起きして、お母さんにお弁当作るの手伝ってもらった。ホントは自分一人で作りたかったんだけど……
りょうりなんて初めてだから、わたしのが美味しくなかったら、司君こまると思った。

二人で、じてんしゃにのつてとなり町の公園に行った。

公園で二人でお弁当を食べた、わたしのを食べて、司君はこまった顔をしていた、もっとがんばろうと思った。

お弁当食べて、お話をして、その後帰った。明日は何をしようかな……」

8月14日……無い。

次のページには、日付も、曜日も、天気も、書かれていなかった。

ただそこにあるのは、ほんの少しの紙のたわみだけ。

『……わたし、どうして書くの止めちゃったんだろう……』

司……司君……

誰だろう、思い出せない……

好きだった、わたしが好きだったはずの男の子。

つ……か……さ……

つうと、頬を伝う、ぬくもり。

「あ……………つかさ……………君」

気付けば、涙がこぼれ、日記帳の上にぼたりと落ちる。

涙は、乾いて、ほんの少しのたわみを作った。

思い出した。

どうして忘れていたのか。

好きだったはずなのに。

いや、好きだったからこそ、認めたくなかったのだろう。

もう、会う事が出来ないなどと。

死んでしまったという事を。

わたしはそつと日記を閉じて、鍵をかけた。

机の底の、小さな記憶。

鍵のかかった小さな思い。

わたしは、日記を、再び元有った、机の奥に仕舞った。

誰にも知られぬ、過去のわたし。

おやすみなさい。

【8月14日 / 木曜日 / 雨】

『司君が死んだ……きのうの帰り道、事故で……司君が……』

消しゴムの跡がかすかに残る、最後の日付。

涙でにじんだ、最後の日付。

そして

おやすみなさい。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3106b/>

茜色の日記帳 ~ Missing Mean ~

2010年10月18日10時00分発行